

旭神経内科リハビリテーション病院

今年度集団訓練「さくらの会」は引き続き3ヶ月毎に休み期間を入れつつ実施しています。内容としては、高次脳機能障害についての基礎知識に加え社会制度についての内容も取り入れています。参加されている当事者様にとっては自身を振り返る良い機会となっています。

支援普及事業としては、当院ホームページを一新しており、より多くの方に見て頂けるよう目指しています。完成時期は未定ですが、今後の普及活動に繋がればと考えています。



▲「さくらの会」の様子

亀田リハビリテーション病院

2月17日に普及啓発活動として、ドキュメンタリー上映会と交流会を行いました。約60名が集まり、小児期に発症しお子様を育てている当事者のドキュメンタリーを観覧し、その後安房・いすみ圏域の支援事業所の紹介を行いました。

参加者の方からは「目に見えない障害だからこそその苦労が分かった」、「周りの人々からの支援がどれだけ大切か知ることができた」等、高次脳機能障害に対する知識や対応について深める時間となりました。



▲ドキュメンタリー上映の様子

総合病院 国保旭中央病院

昨年12月23日(土)に開催された、今年度2回目の「高次脳機能障害 当事者・家族・支援者の会」についてご報告致します。

今回は、「障害者雇用で働くとは？」というテーマで、就労支援を経て障害者雇用で復職を果たした当事者の方をお招きし、お話し頂きました。

仕事をすることでどんなことに苦労しているか、工夫していることは何か、職場に対してどんな配慮をお願いしているかなど、体験談を聞くことが出来ました。

その後は参加された当事者の方が困っていること、支援者が疑問に感じていることなどについて、和やかな雰囲気の中で意見交換がなされました。

この交流会は今年度も定期開催の予定です。当事者・ご家族同士の交流の場、支援者の方々との情報共有の場になればと思っています。ご参加をお待ちしています。



▲当事者・家族・支援者の会の様子



掲示板

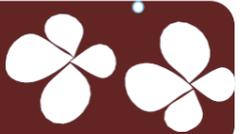


- 支援センターだより
- 全国の動き・イベント講習会報告

こ～じのう掲示板は千葉県千葉リハビリテーションセンターや千葉県、全国の高次脳機能障害に関する情報を紹介する広報誌です

菜の花メッセージ

菜の花メッセージは、高次脳機能障害支援にかかわる方々から、応援メッセージをいただき掲載しております。



高次脳機能障害の方に向けた支援と令和6年度障害福祉サービス等報酬改定について

名古屋市総合リハビリテーションセンター
副センター長
鈴木 智敦
すずき ともあつ



令和6年2月6日、令和6年障害福祉サービス等報酬改定検討チーム会議が開催されました。会議の資料は(案)が取れ公開され、高次脳機能障害を有する者への支援の評価として、①一定の研修を受講した常勤の相談支援専門員をおく相談支援事業所、②高次脳機能障害を有する利用者が一定数以上であって専門性を有する職員を配置する通所サービスや居住系サービスについて、報酬上評価(加算)をする仕組みが新規で創設されました。高次脳機能障害に関する支援に対し、ここまで明確に報酬上に取り上げられたのは初めてではないかと思えます。地域の支援者が高次脳機能障害について学ぶ機会ができ、その特性を少しでも理解しながら支援できる仕組みのひとつができたこととなります。

これまでの、高次脳機能障害を有する方々やそのご家族が障害の理解や適切に支援できるサービスを求め、関係機関や支援者の取組みが、少しずついろいろな場面で取り上げられ、こうした制度等にもつながってきています。

当社でも、これまでも高次脳機能障害への取り組みには力を入れており、令和3年度には「なごや高次脳機能障害支援センター」として組織を改編しました。ご本人・ご家族を支え様々なニーズに応じていくため組織だけではなく、多職種・他機関の連携を含めた、仕組みや体制整備が重要です。令和4年度からは、国土交通省の「社会復帰促進事業」に手上げをし、①ネットワーク構築支援(病院から取りこぼさない)、②自立訓練提供支援(必要に応じた特性に応じた支援)、③地域連携支援(地域の受け皿支援)を実施し、これまで適切な支援につながらなかった方々について、その一部ではあるが支える仕組みができています。また、令和5年度からは、総合支援法に位置付けられた地域生活促進事業の「高次脳機能障害及びその関連障害に対する地域支援ネットワーク構築促進事業」について愛知県の予算だてにより、当社に2名の増員が図られています。今回の報酬改定は地域の事業者の理解促進と受け皿づくりの拡充につながる大きな機会です。どのように活かして体制整備はつなげるかは各都道府県、その関係機関等にかかっています。

制度はあくまで一つのツールです。地域の実情に応じた体制をとり活用しなければ意味がありません。これからの高次脳機能障害の方への支援は、地域共生社会の中でどうあるべきかについても、一緒に考えていくことが必要であり、今回の改定をひとつのチャンスとして取り組んでいただければと思います。

編集後記

今年度最後の掲示板です。下半期はいろいろな企画が盛りだくさんでしたが、スタッフ協力のもと、どうにかやり遂げることができました。どのイベントも多くの皆様にご参加いただき感謝の気持ちでいっぱいです。来年度は高次脳支援に追い風が吹くことになりそうですね。これを機にもっともっとよい風を呼び込んで、支援の輪を広げていきたいと思っています。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。(四代目H)



こ～じのう 掲示板

2024.3 vol. 51

発行日 ■ 2024年3月30日
発 行 ■ (社福)千葉県身体障害者福祉事業団 千葉県千葉リハビリテーションセンター
千葉県緑区菅田町1-45-2 TEL. 043-291-1831(代)内線198
発行責任者 ■ 地域支援センター 高次脳機能障害支援部
部長 長谷川 純子 (高次脳機能障害支援センター)
<http://www.chiba-reha.jp/> ※ホームページからご覧いただけます



令和5年度 関東甲信越ブロック・東京ブロック合同会議

2023.11.29
Zoom開催

当センターからは支援コーディネーター5名が参加しました。今年度は、各都県における支援機関の概要の紹介がありました。地域により体制が大きく異なることを改めて理解しました。併せて各県から提案された議題(高次脳機能障害の相談支援に対応可能な人材育成、高次脳機能障害者のピアサポート活動、小児高次脳機能障害に関する研修や普及啓発、家族会運営の現状や試み、精神科との連携など)について、活発な意見交換が行われました。



令和5年度 高次脳機能障害支援ネットワーク連絡協議会

2023.12.18
千葉県庁

参加者は、支援拠点機関4病院、各拠点の所在市の福祉課、各県士会、特別支援教育関係、障害者の就労支援機関、県関係部局、県健康福祉部障害者福祉推進課の総勢40名でした。各支援拠点から高次脳機能障害支援普及事業の実施状況を報告し、その後質問や意見交換が行われました。意見交換の内容は、精神科とのネットワーク構築から小児期発症の場合や障害者の就労までと広く、各専門機関等から意見が出され、大変有意義な時間となりました。



令和5年度 第2回高次脳機能障害支援普及全国会議

2024.2.16
Zoom開催

会議では、各ブロック会議からの報告をもとにした意見・情報交換と、厚生労働省及び国立障害者リハビリテーションセンターからの情報提供がありました。今回印象に残ったのは、令和6年度の障害福祉報酬改定において、高次脳機能障害者を支援する福祉事業所で専門性を有する支援者を配置すると評価(支援体制加算)されるとの報告と、現在、厚生労働省科学研究で作成中の支援困難度の評価指標についての進捗報告でした。地域支援者の専門性が向上し、重度症状の当事者支援も充実していくことを期待したいです。



令和5年度 第2回高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議・シンポジウム

2024.2.16
Zoom開催

今回は、自動車運転再開支援の課題と展望というテーマで、前半に新潟県の運転支援についての講演、後半のシンポジウムでは、移動支援に関する概念的な定義や制度についての講演の後、実践報告として町田市の移動支援の取り組みや世田谷区の高次脳機能障害ガイドヘルパーについての紹介がありました。実践報告はどちらも地域の事業所や家族会の活動を発端として現在は市町の行政と共同した独自の取り組みになっているそうです。こういった地域の活動が千葉県内にも広がっていくといいなと思いました。



失語症は、脳卒中や脳外傷などで脳の言語中枢が損傷を受けたことにより、言語を操る能力が障害された状態です。話すことのみならず、聞いて理解すること、書くこと、読むことも不自由になります。失語のある人のコミュニケーションを支援するのが、失語症者向け意思疎通支援者です。手話通訳者や要点筆記者と同様に、県や市町村の地域生活支援事業における意思疎通支援事業の一環として行われます。

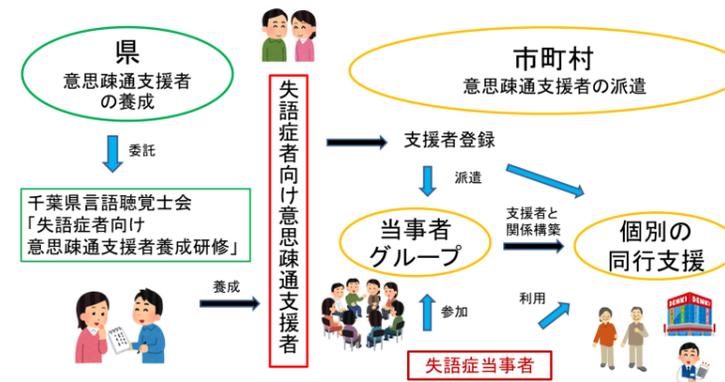
千葉県失語症者向け意思疎通支援者養成研修

千葉県の委託を受けて、千葉県言語聴覚士会が養成研修を行っています。養成研修では、40時間(講義12時間、実習28時間)かけて、失語症の基礎知識や失語のある人との会話技術を学びます。実習には失語症当事者も協力し、会話の相手を務めます。令和5年度までに、県内で約100名の失語症者向け意思疎通支援者が誕生しました。研修には、一般市民や医療・介護・福祉従事者の他、失語のある方のご家族も受講されています。



実習では、実際に失語のある人と、会話をします！

失語症者向け意思疎通支援者派遣事業



失語症者向け意思疎通支援者の派遣は、市町村から行われます。派遣は、失語症当事者の参加するグループへの派遣と、個人への派遣とがあります。個人への派遣では、病院受診や買い物、役所等への手続きなどで利用されています。令和5年度時点、県内で派遣事業が行われているのは5市で、その他の市町村在住の失語症者には、千葉県言語聴覚士会が派遣の試行という形で、失語症者向け意思疎通支援者を派遣しています。

♪ 失語症カフェ ♪

千葉県言語聴覚士会では、失語のある人と失語症者向け意思疎通支援者が出会い、交流する場として、失語症カフェを開催しています。会場に集まる場合とオンラインの場合がありますが、オンラインを利用した失語症カフェは、感染症や天候、移動手段などを気にせず、県内各地から参加できるので、失語のある人からも好評です。



支援者が会話の要点を確認してくれます！

* お問い合わせ *

詳しくは、千葉県言語聴覚士会のホームページをご覧ください。また、会話技術の概要をYouTube動画で紹介しています。
電話：080-7187-2524
メール：contact@chiba-st.com



千葉県言語聴覚士会HP



YouTube動画



オンライン失語症カフェ♪ みんな、笑顔！

※本特集のお写真については、掲載許可を頂いています

執筆：一般社団法人千葉県言語聴覚士会 会長 岩本明子氏



令和5年度

千葉市高次脳機能障害研修

千葉市主催の研修会の中で、「高次脳機能障害の障害特性と対応」「事例紹介～高次脳機能障害者を地域で支える～」についてお話しさせていただきました。当日は、千葉市庁内職員の皆様をはじめとして、千葉市内の生活自立・仕事相談センター、あんしんケアセンター、学校、障害者基幹相談支援センターといった幅広い領域からご参加いただき、基本的な考えや対応がわかった、当センターの活動を知り必要なときに繋がられる等の感想をいただきました。千葉市内の支援連携がより一層図られるよう、今後も広報啓発や相談支援に尽力してきたいと思います。

2023.9.28
千葉市総合保健医療センター
4階会議室



第7回 医療関係者向け 高次脳機能障害就労支援研修会 (千葉リハ就労移行支援プロジェクト主催)

2023.11.25
WEB配信

医療関係者向けに高次脳機能障害者の就労をテーマに「高次脳機能障害概論」と「高次脳機能障害者への就労支援」についてWeb研修会を実施しました。総勢68名の方々に参加され、多くの質問を頂き、充実した研修会となりました。参加者の約7割が回復期病棟で勤務されており、医療機関における就労支援のニーズ・関心の高さが伺えました。医療機関向けへの就労研修会が行えるのは当センターの強みと考えます。今後は「検査結果からわかる就労への影響」や「職場への伝え方」をテーマとした研修が展開できるよう計画していきます。



▲就労移行支援PJメンバーで一生懸命配信中！

第19回 高次脳機能障害リハビリテーション千葉懇話会 「高次脳機能障害の精神症状／行動障害への対応」

2023.10.13
千葉市民会館

本研修会は、先生がフロアに降りて受講者とやり取りをされるなど、受講者参加型の大変興味深い研修会でした。講義内容からはダメなことはダメと言う、など対応のヒントが多く得られたが、“依存的で暴力的な当事者”に対して、ADLの自立を促すことで行動障害が落ち着いた事例が特に印象的でした。行動障害への対応ばかりに気を取られ、ご本人の出来ることを増やす・伸ばすという支援の原則が自身の中で二の次になってしまっていたことに気づかされました。対応困難なケースにも原則に立ち返ることで新たな道が見える可能性があることを心に留め、今後の臨床に臨んでいきたいと感じました。



フロアに降りてお話しされる
船山道隆先生
(足利赤十字病院)

令和5年度 松戸圏域グループホーム推進事業 松戸圏域研修会

2023.12.7
松戸市民会館

松戸圏域で、グループホームの支援をしているみなさまに「高次脳機能障害の方をグループホームで支援する。～千葉リハビリテーションセンターの機能と役割～」というテーマで、前半は、「高次脳機能障害支援のための基礎知識と対応」、後半は、「グループホームに入居することになった方への実際の支援」についてお話をさせていただきました。当日は会場に集まった方が7人いらっしゃり、同時にZoomでも配信され、13の方が参加されていました。高次脳機能障害の方が自立に向けた生活をするためには、周囲の環境調整が重要となり、現場で支援をしてくださっている皆様のお力が必要となります。その方たちに直接お話ができるとてもよい機会になりました。



▲オシャレな松戸市民会館

カフェ輪駆 ～就労定着者の交流の場～ (越田) (千葉リハ就労移行支援プロジェクト主催)

2023.11.11
千葉リハ

千葉リハセンターでの活動を終了し、お仕事に復帰した方、新しい仕事、初めて仕事に就いた方を対象とした交流会を開催しました。アイスブレイクからはじまり、ストレス対処のミニレクチャー、グループワークを行いました。事故や病気により変化した自分と付き合いながら、仕事を続けていくといった中で大変なこと、もやもやした気持ちなど当事者同士で語り合う機会となっています。参加者からは、自分の経験を伝えられてよかった、参加者のそれぞれに共感する部分が多くあったとの感想もあり、有意義な会となりました。



小グループでお話▶

紙飛行機飛ばし大会▲

令和5年度 3部合同研修会

2023.12.22
千葉県子どもと親のサポートセンター

千葉県子どもと親のサポートセンター及び、千葉県総合教育センター特別支援教育部のおよそ20名の先生方を対象に、子どもの高次脳機能障害をテーマとした研修が開催され、当センターから2名の職員が派遣されました。県内教育相談の中核となるこれら機関の先生方と高次脳機能障害の視点を共有できたことは大変心強いです。医療と教育がより連携していくための関係づくりができたと感じています。





第20回 高次脳機能障害リハビリテーション講習会

2024.1.20
千葉文化センター

「高次脳機能障害者が地域で暮らすために」 (日本損害保険協会助成)

本講習会は、前半は小島一郎先生のご講義『地域支援者から見た高次脳機能障害』でした。地域生活支援に際して、当事者の抱える「課題」のみに注目せず、「生活者としての人物像」を把握して共有することが大切だというお話はとて印象的でした。後半は、支援者やご家族によるシンポジウムでした。『誰もが地域で暮らすために』というテーマのもと、「本人と支援者で目標がぶれないこと」「支援者間で積極的に連携すること」「コミュニティの構築＝地域づくり」といった示唆に富む視点が次々に示され、たいへん勉強になりました。



フロアからの質問に答えるシンポジストと講師▲

ヤングカフェ ～就労経験のある若い方の交流の場～

2024.2.3
千葉リハ

(千葉リハ就労移行支援プロジェクト主催)

当日は、現在就労している方、就労訓練を受けながら就労を目指している方の7名の参加がありました。仲間と簡単なお菓子を作りお茶をしながら、働く意味や今困っている事、休日の過ごし方、楽しみ方などお話を楽しみました。収入を得て好きなことをするため、社会貢献の為働く、休日は料理・テレビ観戦・スポーツ観戦・外出して仕事のことを忘れる、などたくさんの方の会話が生まれていました。アンケートでは「また参加したい」が100%、いい話ばかりだった、自分以外の様々な考えなどが聞けてとてもこれからの自分に参考になった、交流が楽しかった、という声が聞かれました。



▲話は大盛り上がり

お菓子作り▶



令和5年度 地域リハビリテーション調整者養成研修

2024.2.29
Web開催

「暮らしの自立に向けた支援 ～生活版ジョブコーチ支援の考え方と実践～」

患者・利用者さんの暮らしの自立を支援するためには、高齢・障害分野に限らず、できること、できそうなことを見定めて関与することが重要です。研修では、高次脳機能障害者の生活自立支援手法として開発された生活版ジョブコーチ支援の考え方、基礎を事例を紹介しながらお話ししました。その方が今の支援段階にいるのかのアセスメント結果に基づいた支援をすること、「声かけ・見守り・確認」という支援があること、など関わりポイントをお伝えし、本来の能力を過少評価して過介助になっていないか、見直していけるようにお伝えしました。アンケートからは、「アセスメントが重要であること」「本当の自立の話聞くことが出来た」「このような支援ができればもっと自宅で暮らせる方も増える」等の声を頂きました。



▲画面の向こう側に届くように心を込めて配信中

第21回 高次脳機能障害 交流会

2024.3.2
千葉リハ

講義「ストレスとの上手な付き合い方」 + 交流会

「第21回高次脳機能障害交流会」の前半は遠藤心理師によるプチ講座「ストレスケア」でした。後半は一グループ10名前後にわかれて交流会をおこないました。みなさん、熱心に他の参加者に質問をしたり、質問に答えたりしていました。自分が参加したグループでは、話し合う際にノートやスマホなど書くもの手にもち、メモをしながらやりとりをされている方が多かったです。対処方法を自然に実践させているのに感動しました。



▲ストレスケアに関する講義



小グループで交流会▶



高次脳機能障害支援センターの近況や支援活動などを報告します。

「働く先輩の声を聴こう」青年期当事者・家族合同グループ

これから社会に出ていく青年期の皆様(学生さん、卒業生、そのご家族)を対象に、当事者の先輩のお話を聞く会を開催しました！

「ご本人とご家族の生の声が聴きたい」というニーズに応えるべく、昨年度から企画開催しております。今回も、高校生～20代のご本人たち、そのご家族あわせて12名のご参加を頂きました。社会で実際に働く先輩から、「働くために準備したこと(リハビリで身に付けたこと)、実際の職場で気をつけていること、余暇の過ごし方」等、様々な角度からのお話を伺いました。先輩のお母様からも、「家族として感じていたこと」を率直に伝えて頂き、皆さま大きく頷きながら聞いておられました。体験談の後には、ご本人たちとご家族と別れて懇談会を行いました。先輩に(家族には言えない)悩みを相談したり、お互いに頑張ろうと励まし合っておられました。アンケートも大好評頂き、有意義な時間となったようでした。



▲先輩の話を実際に聴く参加者の皆さん

高次脳機能障害地域支援者向け連続講座 第3回・第4回

年間4回行われる連続講座が、終結しました。第3回「記憶障害・遂行機能障害」、第4回「社会的行動障害・失語症」ともに多くの地域の皆様にご参加いただき、大変ご好評いただきました。



▲精神科医 先崎章先生 ▲言語聴覚士 高橋誠貴氏

2019年度から開催し今年度で5回目をむかえました。毎回多くの事例を用いて支援のコツをお伝えしています。第3回は63名、第4回は61名の参加でした。今回は、第4回に参加された方のコメントをご紹介します。

連続講座に参加し、社会生活の中で課題になりやすい社会的行動障害についてご本人なりに何か原因があってその行動につながっていることを探っていくことが必要であると再認識できました。また、ご本人が取り組みやすい点を整理して行う重要性を学びました。失語症への支援として、具体的な例の説明やワークを実践から対応方法が非常にイメージしやすかったです。今後、患者様が伝えたいことが伝わった時は伝わったとフィードバックしたいです。

第6回 高次脳機能障害 生活版ジョブコーチ支援研修会

生活版ジョブコーチ支援とは、高次脳機能障害者が自立生活をしていくために必要な知識や技術を、実際の生活場面で訓練し援助する訪問型の支援です。直接的な「介助」から、「自立への見守り」という新しい支援の認識を獲得していただき、実践で活かせることを目指します。地域の皆様に愛されて(?)6年目の開催です。

ご要望の多かったグループワークの時間を充実させ、より実践的な研修となるよう企画しました(29名参加)。頂いた参加者のコメントをご紹介します。

実際に日中・夜間と高次脳機能障害の方と関わり生活面での支援をさせていただいています。今回の研修でさまざまな症状があることを改めて学び、より詳しく学ぶことができました。その上でしっかり『アセスメント』し、どのように支援していくか考えることが重要だと感じました。また、支援者(家族・ヘルパー・相談員等関わる人みんな)の対応方法を統一することで効果的な支援に繋がると学びました。当事者の方が支援者たちから違ったこと(対応)を言われてしまうと混乱してしまうことがあるということでした。その点は支援者たちの連携が大切だと感じたため早速実践したいと思います。



▲「生活版ジョブコーチの視点で」事例をアセスメントし、実際に支援計画を立てるグループワーク